みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション「きとね」オープンへ

町では、平成29年度から林野庁による補助事業「林業成長産業化地域創出モデル事業」を活用し、林業および林産業を核とした地域振興に取り組んできました。

これまでの取り組みの集大成として、森林・林産業振興の拠点施設「みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション（愛称・きとね）」が間もなくオープン。

関連事業者が連携を深める拠点機能や「南会津町＝木の町」を広く周知する情報発信機能、森林をより身近に感じていただくための木育機能、林業および林産業の担い手を育成する研修機能、魅力ある木材製品や森林由来の商品を展示・販売する機能など、当施設にはさまざまな機能があります。

今号では、お子さんが楽しみながら木に触れて、学び、遊び、考える場「木育スペース」の情報をご紹介します。

さらに「きとね」のオープンに向け、運営準備会の中心を担ってきた南会津森林組合の皆さんの声や、館内に設置する遊具や家具を手掛ける職人の思いに着目します。

「きとね」での体験をすてきな思い出に

「木育スペース」には、異なる3つの空間が存在します。

まずは、森林や木材などに焦点を当てた書籍や絵本が並ぶ空間「**まなぶば**」。木製のテーブルやイスから温もりが伝わり、リラックスしながら学びを深めることができます。

続いては、木をシンボルとした印象的なオブジェに囲まれた空間「**あそぶば**」。木のおもちゃが、いつしか美しく大きな作品となり、生きているかのように、見た目や形を変化させる―。一度では完結せず、定期的に訪れたくなるストーリー性を意識しています。

最後は、お子さんが独自の感性で作品を生み出し、展示する空間「**つくるば**」。自分が創作した作品とともに、みんなで一緒に空間を作り上げる楽しさに気付いてもらえる時間を提供します。

「あそぶば」「つくるば」に設置するオブジェや遊具のイメージは、下段のとおり。実際に手に取る日を、お楽しみに。

4月9日にオープンを迎える「きとね」。ここでしか味わうことができない特別な時間を過ごしに、楽しい思い出づくりに、皆さんのお越しをお待ちしています。

きとね
2022.04.09（土）
OPEN

【問合せ】
林業成長産業化推進室
電話　0241-62-6220

■ ファンタジーア（つくるば）

大小さまざまな額縁の中に、感じるまま木製のマグネットを貼り付ける。いわば、進化したお絵描き。

イタリア語で「夢」を意味する「ファンタジア」。創像力を育みましょう。

■ おかおをつくろう！（つくるば）

大きな額縁の中に、円形の顔型パズルが36枚並ぶ。カラフルなピースを自由に入れ替え、表情の変化を楽しめるアート作品。

喜怒哀楽の豊かな表情と「にらめっこ」してみては。

■ おもちゃのなる木（あそぶば）

積木の木と同様、壁面にもう1つオブジェを配置。枝先がトレイになり、それぞれ異なる木製玩具を複数展示する。

トレイごと玩具を取り出し、遊ぶことが可能。

■ 積木の木（あそぶば）

木をモチーフとした型枠を壁面に配置し、積木（つみき）をはめ込むことで、色鮮やかな空間を構成するオブジェ。

型枠と積木は、丸、四角、三角の3種類を用意。遊ぶ人に合わせ、趣が変化していく仕様に。

南会津森林組合
本所　技師
星　雄一（ゆういち）さん（折橋）

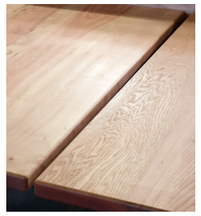
林業や林産業と言葉で聞いても、イメージしにくい面があります。森の成り立ち、木材供給、製造、商品化・販売に至る流れを学べる施設の存在は、事業者のモチベーションにもつながるものです。

また、子どもを育てる親として「木育」を大切にしたい。森林組合では、学校と連携して森林環境学習に取り組んでいますが、子どもたちの目の輝きが忘れられません。「この木は何？」「どうやって育つの？」子どもたちの素朴な疑問に寄り添い、森林への興味・関心を高める。私たちの身近な場所に、木と触れ合える施設があるすばらしさを伝えていきたいと考えています。

南会津森林組合
伊南・舘岩支所長
星　祐治（ゆうじ）さん（湯ノ花）

私たち森林組合の仕事は、文字どおり森林を整備すること。林業および林産業の根幹を担う組織である一方、後継者不足という大きな課題を抱えています。技術専門員の高齢化が進み、若い世代の働き手が少ない状況を何とか解消したい。

「きとね」の運営準備会では、施設の魅力化や利活用について、検討を深めてきました。特に、研修の機会を充実させることで、山仕事に携わる人材育成を進めたい。苗木を植栽し、間伐を経て、健全な森林が形成される。目に見える仕事の達成感を、一緒に味わえる仲間・担い手が「きとね」から生まれることを期待しています。



（写真㊤３枚）

館内に設置するテーブルは、カバ、クリ、サクラ、セン、タモ、ナラ、ブナの７種類。木目や色味など、町産材が持つ豊かな表情と向き合える面白さ。天井、照明、壁面、床、散りばめられたインテリアまで、全身が木々の呼吸に包まれる―

温もりある質感で 居心地の良さを演出

金中林産合資会社　武藤 桂一（けいいち）さん（田部）

林業・林産業の地位を 再び押し上げたい

優良広葉樹材の供給地としての地位を確立し、林業および林産業が最盛期を迎えていた昭和30年代。旧田島町だけでも、製材所13カ所と県営の製材工場が、軒を並べました。岐阜県飛騨地方からも、買い手が訪れていた幼少期の記憶を、今でも鮮明に覚えています。

優良広葉樹の減少や、外国産材の流入により、いっとき林産業は低迷しますが、金中林産は製材から加工へと業態を変え、林産業の火を灯し続けてきました。

どんなオーダーにも応えられるよう技術を磨き、さまざまなアイディアを形にしてきた歴史。同じ木材でも、提供方法やアプローチの仕方は異なる。事業者が独自に積み上げてきた知識と技術を披露しながら、林業や林産業の可能性に挑戦する場となる「きとね」には、大きな価値があります。

「きとね」の存在を 生活リズムに組み込む

「きとね」館内のサロンやシェアスペースで、おもてなしする家具類（テーブルやイスなど）を、主に手掛けています。木地や曲線部に触れ「この質感いいな」と感じたとき、すぐに情報が分かるよう木の種類なども刻印。自分に合う肌触りや質感を、ぜひ探してみてください。

目指すものはシンプル。会議やイベント、ちょっとした休憩など、来訪される皆さんが快く過ごせる空間を目指したい。木に囲まれながら、使って、座って、遊んで―。「また行きたい」と感じていただければ、何よりの喜びです。

（写真㊤㊧）

家具類に施した「丸みや曲線美」は、来訪者を虜にすること間違いなし

木製玩具と触れ合い 興味や関心を育む

有限会社児山製作所　児山 文彦（ふみひこ）さん（田部原）

（写真㊦３枚）

前ページでも紹介した「積木の木」や「おかおをつくろう！」は、お子さんの思うままに姿や形、色彩を変化させていく。小さな遊具が、小さな手で、大きな作品へと進化。遊具一つ一つに込められた職人の思いが、お子さんに届きますように―

玩具製作の強みを 地元へ還元する

「きとね」の建設にあたり、私たち児山製作所が担う役割は、お子さんからお年寄りまで、世代を問わず利用できる「憩いの場」を充実させること。木育スペースに配置するオブジェや遊具、書棚などを現在製作しています。

木製玩具を取り扱うメーカーとして、お子さんが手に取る遊具にこだわりたい。工場では、安全性に優れ、幼心にも親しみを感じる品質を追求するため、職人が日々黙々と作業に没頭。

「あそぶば」や「つくるば」を訪れた皆さんが、手に取った遊具を自由に組み合わせ、イメージを形にする。感受性豊かなお子さんは、木を肌で感じ、創る楽しさに目覚めるかもしれない。その過程に携わり、健やかな成長を見守れることに、意欲とやりがいを感じています。

日々の暮らしに木材を 活用の裾野を拡大

これまでは、森林整備・素材生産・製材・木工・工務店など、身近な存在であるはずの事業者が、密接な連携を取れていませんでした。事業者の連携を深め、木材利用のアイディアを集約することで、活動の幅が広がり、町産材の魅力や付加価値も高まるはず。

私たちの周りには、壁紙やフロアシートなど「木を模したモノ」があふれていますが、木本来の魅力を味わうことはできません。

「きとね」が、木の本質と向き合える場として機能し、町民生活と町産材活用を結び付ける存在となることを期待します。

（写真㊤㊨）

仕上げの段階に入った「積木の木」は、自由な発想の受け皿に